

授業実践事例

小学校 第5学年 単元名 物語の全体像をとらえ、考えたことを伝え合おう(全6時間)

教材名 「たずねびと」(光村図書5年)

単元について

この単元は、小学校学習指導要領(平成29年告示)解説国語編 第5学年及び第6学年「C 読むこと」(1)エ、力である以下の内容を指導事項として、重点を置いて学習します。

指導事項:C 読むこと(1)エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。
(1)力 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。

自分の考えをまとめるためには、文章の構造と内容を把握し、精査・解釈することが求められます。教材文中で用いられている言葉や表現の効果を考えながら、児童が主人公に自分を重ねて読む活動につなげ、資質・能力を身に付けることができますようにします。

教材である「たずねびと」は、現代を生きる11歳の主人公が戦争に向き合うことで、自分自身や未来について考えを深める内容となっています。小学5年生の児童にとって、主人公と自分自身を重ねて読み進めることができ、児童が自分自身の変化を見つめることができる教材です。この教材を用いて、児童が主人公と自分自身を重ねて物語を読み進め、気付きや考えをもったことを伝え合う活動を通して、資質・能力を身に付けることができますようにします。

1 単元の目標

○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。【知識及び技能】

○人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。

○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。【思考力、判断力、表現力等】

○言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。

【学びに向かう力、人間性等】

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ)	① 「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ) ② 「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ)	① 進んで、人物や物語などの全体像を具体的に想像したり表現の効果を考えたりして、学習課題に沿って、自分の考えを伝えようとしている。

単元の目標や評価規準の設定については、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」を御参照ください。



3 単元の指導と評価の計画(全6時間)

「読むこと」の学習過程		次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等	
<p>構造と内容の把握</p> <p>精査・解釈</p> <p>考えの形成</p> <p>共有</p>	①単元を通して身に付けさせたい資質・能力を明確にし、児童に単元の見通しをもたせる場面を設定します。	一	1	<ul style="list-style-type: none"> ○単元扉を読み、題名などからどのような物語が想像する。 ○全文を通読して感想をもち、単元の学習課題を設定し、学習計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元扉や題名から想像したことをまとめ、学習の見通しをもつことができるようにする。 ・物語に関連した資料を電子黒板で提示し、内容の大体を捉えられるようにする。 	<p>[知識・技能①]</p> <p>ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し使われている言葉、行動や情景、心情を表す言葉に着目して使っているかの確認。 	
	②単元で身に付けさせたい資質・能力を、「行動や情景、心情を表す言葉に着目しながら考えたことをまとめ、考えたことを伝え合う」という言語活動を通して身に付けられるように指導します。	二	2	本時	<ul style="list-style-type: none"> ○場面ごとに、「綾」が出会ったものや人を表に整理し、広島に行くことを決めるまでの「綾」の心情を捉える。 ○広島に着いてからの「綾」の心情の変化を捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「綾」が出会ったものや人を表に整理することで、内容全体の共通理解を図り、心情について考える手掛かりとなるようにする。 ・行動や情景、心情描写などの言葉や表現に着目させ、「綾」と自分を重ね合わせて読ませる。 	<p>単元において、適宜児童の学習状況を把握する場面を設定します。ここでは、[記録に残す評価]のみを位置付けていますが、学習内容を確実に習得できるようにするため、[指導に生かす評価]を適宜行います。</p> <p>[思考・判断・表現①]</p> <p>ワークシート・観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしているかの確認。 <p>[主体的に学習に取り組む態度①]</p> <p>ワークシート・観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「綾」が感じ取ったこととともに、題名の意味、自分自身の変化について考えて記述しているかの確認。
			3		<ul style="list-style-type: none"> ○最後の場面について表現に注意して読み、物語の全体像を捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物語の全体像を捉えさせるために、最後の場面を中心に、心情を表現する言葉に着目して読ませる。 	
			4		<ul style="list-style-type: none"> ○「たずねびと」を読んで変化した自分の気持ちや考えを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章中の言葉を引用することや描写に印を入れることで、根拠が分かるようにしてまとめさせる。 	
			5				
	③単元終末に単元全体を振り返る場面を設定します。	三	6	<ul style="list-style-type: none"> ○作品を読んで理解したことや題名の意味について感想や考えをまとめ交流し、単元全体を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・異なる観点で考えをまとめていたり、同じ観点でも感じ方や根拠が違ったりしているところに着目させるようにする。 ・今後の読書活動につなげられるようにする。 	<p>[思考・判断・表現②]</p> <p>振り返りの記述・観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げているかの確認。 	

単元の指導と評価の計画の立て方については、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」や「単元デザイン FIRST STEP」を御参照ください。



4 本時の目標

広島に行くことを決めるまでの「綾」の心情を捉えることができる。

5 本時の展開(2/6)

	学習活動	指導上の留意点	ポイント
導入	1 前時を想起し、「綾」の心情を捉えるという本時の学習課題を捉える。	○「原爆供養塔納骨名簿」のポスターや資料を確認することで、綾の心情に働き掛けるきっかけとなったものがあることに気付くようにする。また、物語が前半と後半に分けられることを確認し、「綾」に自分を重ねながら読むことを促す。	【導入の場面について】 1時間の授業で何ができるようになればよいのか、具体的にイメージできるように、本時の「めあて」を児童に示します。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> めあて 広島に行くことを決めるまでの「綾」の気持ちを考えよう。 </div>		
展開	2 「綾」が出会ったものや人、建物を、表に整理し、「綾」の心情を考える。 【整理した表】	○「綾」が出会ったものや人、建物について表に整理することで、心情を捉える手掛かりとなることに気付かせる。何が「綾」に影響を与えたのか、児童の言葉を取り上げながら、「綾」が広島に行くことを決めるまでの心情に迫ることができるようにする。 ○出会ったものや人に対応させて心情を考えることができるように、表の下の部分に「綾」の心情を書き込むようにする。	【書く活動について】 本時の目標を達成するために、表に心情を書き込み、物語の前半における主人公の心情を考えることができるようにします。
	3 「綾」はなぜ広島に行くことを決めたのか、「綾」の心情について考えたことを交流する。 ・表を見直し、自分の考えをまとめる。 ・グループで交流する。 ・全体で交流する。 ・自分の考えを見直す。 【写真：グループで交流する場面】	○表に書き込んだ「綾」の心情の根拠となる箇所を、教材文に線を引いたり表に付け加えたりして考えを見直すようにする。 ○グループで交流する中で、考えの違いについて確認するようにし、理由を伝え合うようにする。気付きは付箋に記入して貼るようにする。 ○考えを広げることができるように、「ポスター」、「楠木アヤ」、「名前」など、視点(キーワード)ごとに分けてグループでの交流を行った上で考えを整理し、全体で交流するようにする。 ○グループ交流、全体交流を通して、友達のと根拠について確かめ、自分の考えに別の色で付け加えることで違いを明確にし、自分の考えを広げられるようにする。	【話し合う場面について】 主人公の気持ちについて考えを広げるために、自分で考えたことをグループ、全体で交流する活動を取り入れます。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 工夫1:主人公の心情を捉える活動例(p.4) </div>		【学習評価について】 学習内容を確実に習得できるようにするため、【 指導に生かす評価 】を行います。特に、「努力を要する」状況(c)と判断される児童に対しては、その学習状況を見取り、適切な支援を行います。
まとめ	4 本時のまとめをする。	○主体的な学びにつなげることができるように、児童の言葉を基にまとめる。	【まとめの場面について】 本時の「めあて」に対応した学習内容の「まとめ」になるようにします。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> まとめ 何十年も探されないでいる「アヤ」のことが気になって、広島で「アヤ」を探してあげたいと思っている。 </div>		
	5 本時を振り返り、次時の学習に見通しをもつ。	○自分と「綾」を重ねながら、広島に行くことを決めるまでの「綾」の気持ちを考えたことを振り返る。 ○次時、広島に行った「綾」の心情をまとめ、心情の変化について考えることを確認する。	【振り返りの場面について】 何について振り返ればよいかを明確に示し、本時の「振り返り」を行います。

6 本時における指導と評価の工夫

工夫1:主人公の心情を捉える活動例

本時の目標は、主人公の心情を捉えることです。
 心情を捉えられるようにするには、児童の思いを引き出すような教師の発問が重要な役割を果たします。児童の発言から、主人公の心情を考えたいという気持ちを高め、視点を絞っていくことが大切です。そして、書く活動を取り入れ、考えを整理させるのも効果的です。
 本時では、一問一答にならないようにすることと、広島に行くことを決めるまでの主人公「綾」と自分を重ねながら考えるようにすることを意識しています。



〈児童の思いを引き出すような教師の発問〉



表に整理してみて、「綾」さんが、広島に行くことを決めるまでにどのような出会いがありましたか。みなさんが「綾」さんだったら何が気になったでしょう。

表を見ると、広島に行くことを決めるまでには、「ポスター」、「楠木アヤ」、「名前」などに会っています。「綾」さんは、やっぱり自分と同じ名前が気になったと思います。



私は、「名前」という言葉が繰り返し書かれているところが気になりました。繰り返しは強調されているところだと思います。「綾」さんが気になっていることが分かります。



本当だ。「名前」って何回も出てくる。「何段も何段も」も繰り返しだ。たくさん名前が書かれていることが分かります。「名前」に関連して、私は夢の場面が気になりました。



〈児童の発言から視点を絞り、書くことへつなぐ発問〉



なるほど！幾つかの視点（キーワード）が出てきましたね。考えたい気持ちが高まっていますね。「綾」さんが広島に行きたいと思ったのはなぜでしょう。では、「ポスター」、「楠木アヤ」、「名前」から視点（キーワード）を一つ選んで、表や教材文から理由を見つけて書いてみましょう。

【整理した表への記述例】(板書にも同じ表の枠を拡大して提示します。)

最初の「ポスター」の「楠木アヤ」を見つけたところ、夢に見た「名前」の場面の心情（「同じ名前でびっくり」、「探されていてかわいそう」、「興味」など）を、「綾」に自分を重ねて書いている児童の記述例です。机間指導をしながら、視点（キーワード）を確かめていきます。

【「ポスター」、「楠木アヤ」について】

自分と同じ名前の人を見たんですけど、びっくりしただけで、何十年も探して見つけたら、何十年も探したいな。	自分と同じ名前の人を見て、わたしを探しているのかな。不思議。
---	--------------------------------

【夢に見た「名前」について】

ポスターのことが気になつて、何十年も探して見つけたら、何十年も探したいな。	「アヤ」の名前だけ分かっていた。でもほかにもたくさん名前があった。もう少し何かがつかめそうなのに。
---------------------------------------	---

4	3	2	1		
		夢を見る「綾」	ポスターを見つめる「綾」	綾	
	広島市からきたポスター	夢の中のポスター たかさんの名前 「アヤ」	原爆供養塔納骨名簿 名前 （十一さい） 楠木アヤ	「綾」が出会ったもの	人
	お母さん	お兄ちゃん			建物
					「綾」の気持ち

本時では広島に行く前までの部分に着目するようにします。

整理する観点として、「もの」、「人」、「建物」に分け、上段から分けて記しています。自分が決めた視点（キーワード）には印を入れたり丸で囲んだりするようにします。

本時では、出会ったものや人によって影響を受けた主人公の心情を考え、見直した際に書き込むことができるようにしています。

主人公の心情の記述

工夫2:考えを交流する活動例

「考えましょう」「交流しましょう」という言葉だけでは、児童はなかなか活動できません。児童が、友達の考えも「知りたい」と思えるような具体的な視点を児童の中から引き出し、考えをもった上で交流ができるようにしましょう。

グループ交流をすることが、考えがまとまらなかった児童へのヒントにもなり、考えに自信がもてない児童にも発言する機会を作ることにもなります。その上で、考えを見直し、全体交流を行います。

全体交流の場では、描写を基に心情をまとめている児童を中心に、個々の考えが広がるような発言をつないでいきます。

違いに着目させ、★の箇所では自分の考えを見直す時間を取るようにしたことがポイントです。一人一人が主体的に参加できる活動となるような交流の場を設定しましょう。



★①自分の書いたものを見直す。



同じ視点（キーワード）に印を付けていても気持ちが違っていたり、似ていることを書いていても印の位置は違っていたりするようです。違いを確かめながらグループで交流しましょう。

【グループ交流の一部】

わたしは、「アヤ」の名前に印を付けました。「綾さん」は、自分と同じ名前にびっくりして、不思議に思ったから、「アヤ」のことを知りたい、広島に行きたいと思ったと思います。



同じところに印を付けていても、気持ちは違うね。「不思議」や「びっくり」、「どうして」という言葉もあるから、「綾」さんは分からないことを知りたい気持ちだと思います。



わたしも「アヤ」に印を付けました。でも、気持ちはちょっと違って、「綾」さんは、自分と同じ名前の「アヤ」がずっと探されていることをかわいそうと思ったのではないかと思います。だから、自分が「アヤ」を探してあげたいと思ったと思います。



グループ交流

全体交流



★②付箋などにメモをして友達の考えを自分の考えに付け加える。



友達の考えを参考にしている人もいましたね。全体で交流すると、もっと広がって、「綾」さんの気持ちに迫ることが出来ますね。では、全体で交流しましょう。

【全体交流の一部】

わたしは、「アヤ」の名前に印を付けました。「綾さん」は、自分と同じ名前にびっくりして、不思議に思ったから、「アヤ」のことを知りたい、会いたいと思ったと書いていましたが、友達の考えを聞いて、会いたい気持ちは、探してあげたい気持ちに近い気がしました。



わたしも考えが似ています。夢に見るくらいずっと気にしていたので、「アヤ」が見つけれられないことを、「綾」さんはかわいそうに思っていると思いました。だから、「アヤ」を探してあげたい気持ちが広島に行きたい気持ちにつながっていると思います。



「綾」と自分を重ねて、心情を表や教科書の言葉を根拠にして交流することができましたね。友達と交流して広がった考えを付け加えましょう。



★③全体交流を経て友達の考えを自分の考えに付け加えまとめる。

7 授業者の声

「読むこと」の学習指導は、限られた時間の中でどこにポイントを絞ったらよいか悩むところだと思います。

本時の目標を達成するために、一つは、主人公の心情を捉えられるような活動を設定しました。視点を分かりやすく示して、整理した表に書き込む手立てを取り入れたことで、児童が、主人公と自分を重ねて心情を考えようとしている姿が見られました。考えを整理するための書く活動は効果的だと思いました。

また、二つ目は、交流を通して、考えを広げる活動を設定しました。視点を絞って、共通点と相違点について着目して交流するという手立てを取り入れたことで、児童が教材文の描写を根拠に、主人公に自分を重ねて読み、熱心に交流する姿が見られました。そして、随時、自分の考えを見直す時間を位置付けるようにしました。

児童一人一人の考える時間、発言する時間など、児童の活動を十分に確保する時間配分に配慮して、今後も児童が主体的に学ぶ中で、資質・能力をしっかりと育成する授業を目指したいです。